



AIと働くことについて

目次

1 きっかけ

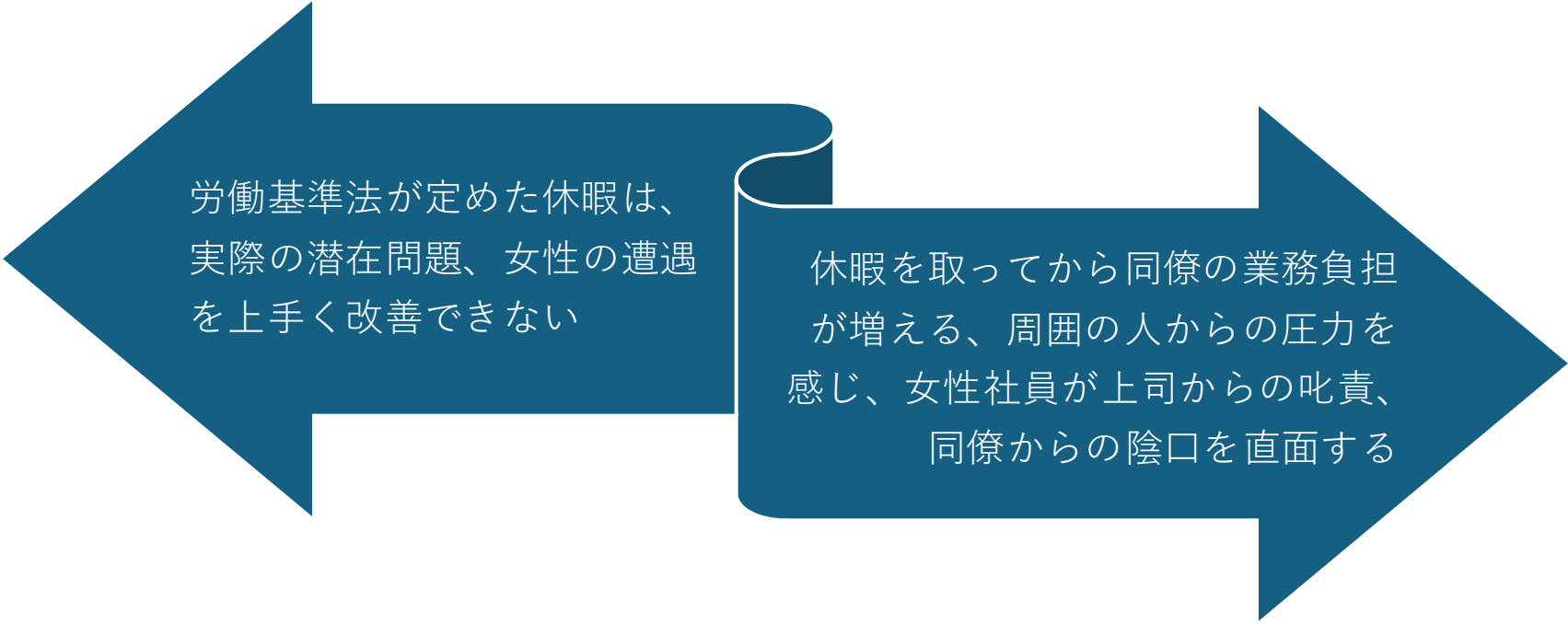
2 今の課題

3 今実際にある会社について

4 まとめ

5 今後の展望

きっかけ



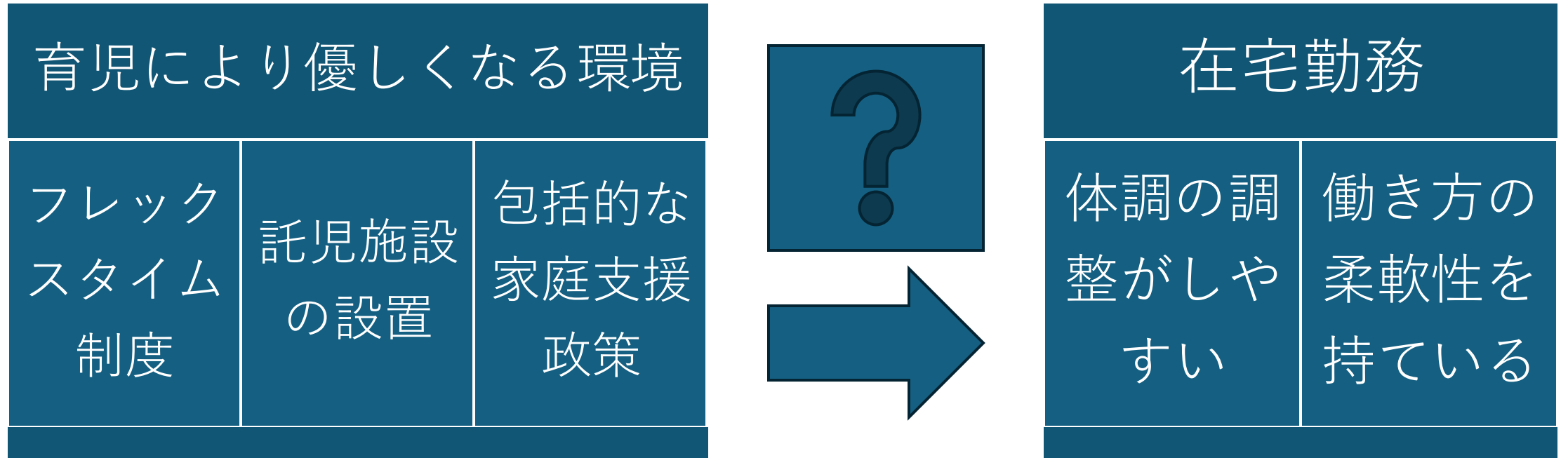
労働基準法が定めた休暇は、
実際の潜在問題、女性の遭遇
を上手く改善できない

休暇を取ってから同僚の業務負担
が増える、周囲の人からの圧力を
感じ、女性社員が上司からの叱責、
同僚からの陰口を直面する

もし女性が就職の際に、履歴書に「生理休暇のため毎月数日休む」と記載したとしたら、多くの企業は女性を採用しようとはしない。

採用されるときでも、低賃金で雇われることが多い。

どのような職場が女性の活動に適している



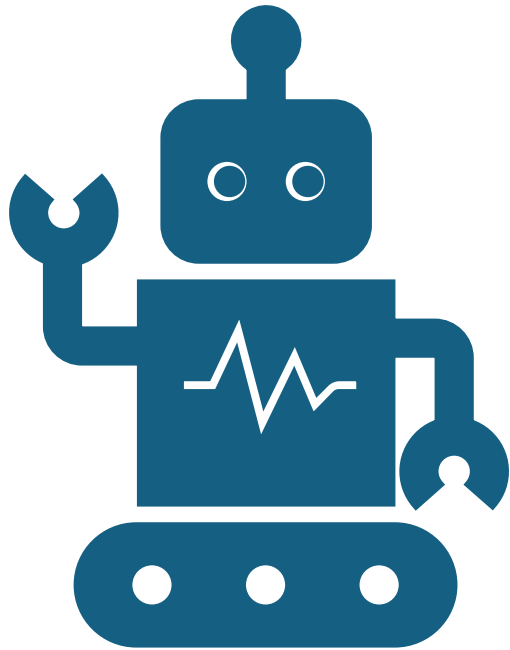
在宅勤務——体調の調整がしやすく、働き方の柔軟性を持っている

AIを使うことによる利点

(これから訪れる時代に向けて、この社会に適した働き方)

- →既存の職役を大きく再編し、AIの操作や開発に関わる新しい職役が増える
→人間同士のチーム活動がAIに補助されることで:
柔軟に作業時間を調整できる
不都合なときには機械に一部の業務を任せる、後で整理・確認すればよい
- カスタマイズされた働き方の重要性に着目
→最も適した仕事をすることで、女性として立派な成果を上げる





AI活用における現状の課題

- ・ AIや自動化に対する偏見や不安

→「AIに仕事を奪われる」「人間の判断が軽視される」といった不安が根強く残っている

- ・ AI導入の不平等

→大企業ではAIやロボットの導入が進んでいるが、中小企業や地方ではまだコストや知識の面で導入が難しい。

- ・ AI導入後の”人間側”の働き方が変わらない問題

→AIが作業を自動化しても、その会社の制度や勤務体制が古いままだと負担は減らない。

実際にある会社のことについて

AIが担った仕事

- 単純作業の効率化 – 繰り返しの事務作業やデータ入力
- リモート勤務の補助 – 会議の議事録やタスク・資料管理
- 労働時間の短縮と柔軟化 – 無駄な残業が減り作業効率が上がる
- 安全性の向上 – 監視映像などでの早期異常検出

身近な例

- 配膳ロボット
- 配送ロボット
- 掃除ロボット
- セルフレジ
- AIカメラ
- スマート家電



パナソニック

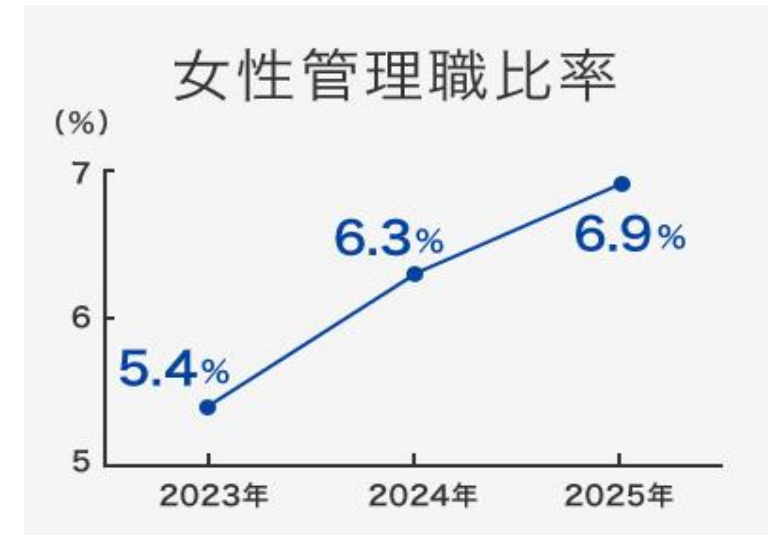
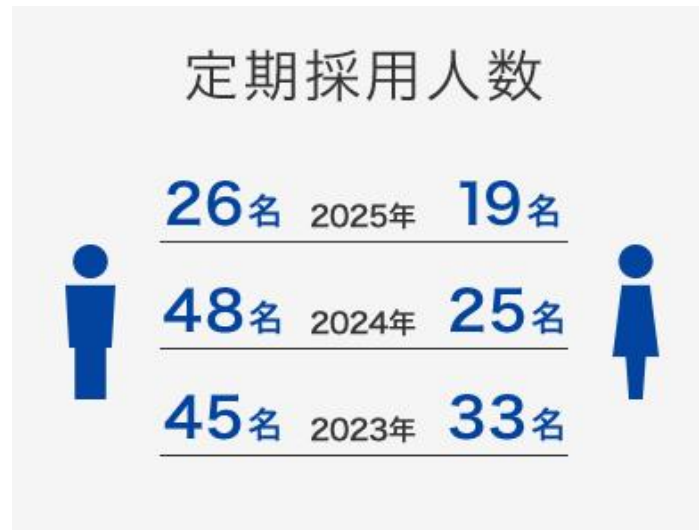
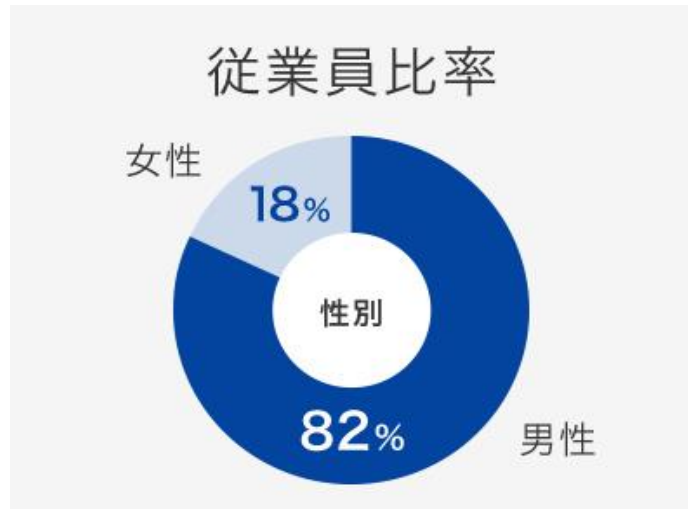
- 課題

夜働くことが多く、時間がない。



AIの活用により、**44.8万時間**の削減に成功。

AIを活用することにより、採用やキャリアに働き方を可視化し、より公平で多様性のある職場づくりが進められている。



まとめ

- ・働きやすい職場の条件
- 育児と仕事の両立がしやすい環境作り
- 自分の時間が確保しやすい
 - 精神的な負担が少ない

そのためには、

**AIを有効的に使い、負担軽減
をすることが重要。**



今後の展望

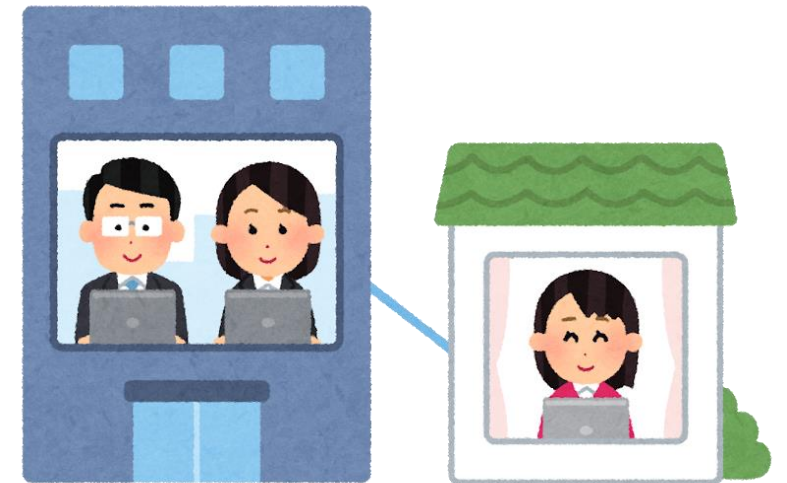
- 女性だけでなく人の負担が減る

“人間らしさ”が必要な仕事は人間がやり、単純作業はAIに

- 働き方の自由度が広がる

生理、体調不良の際はAIが一部業務を代行することで休みやすくなる

→リモートワークの増加



参考文献

- ・ **パナソニックコネクト、「聞く」から「頼む」へシフトしたAI活用で年間44.8万時間の削減を達成**

<https://share.google/ajh9xQw97U8cg4ftj>

ご清聴ありがとうございました。